

『障害者の権利や尊厳に関する県民大会』開催
 平成28年10月2日(日) 富山県・富山県手をつなぐ育成会 共催



手をつなぐ とやま

第162号

富山県手をつなぐ育成会
 富山市安住町5-21
 富山県総合福祉会館内
 TEL 076-441-7161
 FAX 076-441-7255
 mail toikusei@minos.ocn.ne.jp
 HP <http://toyamaikusei.jp/>
 発行責任者
 平野 幹夫

みなさんの会報です
 よく読みましょう



学齢期や本人部会の皆さんに
 よる、元氣いっぱい「受付」。
 大会宣言の際には、参加した
 「本人」たちが、一斉に登壇し、
 一人ひとりの元氣な姿を見て
 いただきました。

— 運転は 心の広さの バロメーター —

「県民大会」あいさつより

私たちの子どもは、障害を持って生まれてきました。が、苦悩しながらも懸命に生き、家族で支え合い、見守り、日々成長する姿に幸せを感じています。

神奈川県の「津久井やまゆり園」での痛ましい事件を聞いて、知的障害のある本人や家族は、大きな不安と心に深い傷を受けました。

「障害者はいなくなればいい」という加害者の考えに、私自身、とても悲しく悔しい思いで、大きな衝撃を受けています。

今年4月には、障害者差別解消法や県条例が施行されましたが、障害のある人もない人も、一人ひとりがかけがえない存在という考えが、まだまだ浸透していかないような気がします。

県民の皆様には、どんな境遇にあるうとも、誰もが等しく大切な存在であること、命の重さや尊厳に思いを馳せていただき、お互いに人格と個性を尊重し、自分らしく暮らせる共生社会づくりと共に歩んでいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

一般社団法人 富山県手をつなぐ育成会

理事長 四方正治

障害者の権利や尊厳に関する「県民大会」

平成28年10月2日(日) 富山市

今年7月、神奈川相模原市の入所施設で、障害のある人たちが殺傷されるという痛ましい事件が起こりました。

加害者の、「障害者は不幸を作り出す、障害者はいらない」といった発言に、障害のある人たちは、まるで自分の事を言われているように感じ、大きく傷つき、不安感を抱きました。家族や関係者も同様です。

このような不安感を払拭するとともに、障害があってもなくても、一人ひとりがかけがえのない、大切な存在であること、障害があっても懸命に生きているというメッセージを広く伝えるため、富山県と富山県手をつなぐ育成会の共催で、急遽この大会が開催されました。当日は、350名余の参加者があり、関心の高さが窺われました。

大会の冒頭、石井富山県知事より、市町村や関係団体と連携し、障害によって分け隔てられること

のない共生社会の実現に向けた取り組みを、さらに進めていくことや、障害や障害のある人に対する社会の理解が深まるよう、しっかりと取り組んでいく決意が述べられました。



石井富山県知事の挨拶

長瀬修氏（立命館大学生存学研究所センター教授）による基調講演では、ナチスドイツ時代の障害者差別から、現在の障害者権利条約、障害者差別解消法が施行されるまでの歴史と流れ、また、この事件に対して、世界中から寄せられた、たくさんのメッセージが紹介されました。

おたがいに 気づかう心で 明るい社会

最後は、長瀬先生自身の、「障害者を含む多様性を大切に」「この事件を機に、改めて、これまでの取組み強化を」「もつともつと街にいきましょう」という、3つのメッセージで締めくくられました。

富山県育成会は、この大会では、「知的障害のある人自身が全面に出よう、それぞれの思いを届けて、知ってもらおう！」という思いを持って参加・協力をしました。多くの知的障害当事者の皆さんが、受付担当や、リレーメッセージの登壇者として参加し、自分の思いを伝えました。

プログラムの終盤、障害当事者、障害者団体によるリレーメッセージでは、事件についての思いや、障害理解への訴え、自分自身の生きがい等を伝え、育成会からは、本人4名が登壇しました。

中村章子さん（本人）

事件の被害者の人たちのことを考えると、とても悲しい。障害があることで、いじめられたりして辛かったが、今はやりがいのある仕事に出会い、頑張っている。

育成会の本人部会の仲間たちと過ごしている時が、一番楽しい。将来は、好きな人と、地域の中で安心して暮らしていきたい。



申岡達也さん（本人）

趣味をとおして知り合った友達と、一緒にいる時が一番楽しい。将来は、障害があっても、自分の家族を持ちたいと思いい、仕事も頑張っている。障害があるからといって、いない人だというのは、おかしいと思う。

坊坂 隆さん（本人）

神奈川での事件は、本当に信じられなかった。なぜ、障害者が殺されなければいけないのか。僕は、容疑者を絶対に許せません。あなたは、それでも同じ人間か！と言いたい。

浅岡由木子さん（本人）
こわい事件だと思った。絶対、人を殺したらだめだと思っ。人殺しなんかできない、穏やかな生活を送りたい。
みんなが、楽しくて、平和に暮らしてほしいと思う。



浅岡美和子さん（保護者）

事件を知った時は、言葉にならないほどのショックだった。辛い気持ちでいるときに、全国育成会連合会の久保会長が、声明文を読み上げられるのを聞いて、「私たちは一人じゃない、全国の沢山の仲間を支えられている」と感激した。
娘を育ててきて、戸惑うこともあったが、障害の子を持つ多くの

親の思いがそうであるように、娘は家族にとってかけがえのない大切な存在。純真でまっすぐな心にも癒され、救われてきた。障害があっても、生きやすい世の中になるよう見守ってくださいと、社会の皆さんに、広くお願いしたい。

大会の最後には、参加した「本人（知的障害当事者）」の皆さんが、ステージに登壇し、四方理事長と共に「大会宣言」を読み上げました。

「大会宣言」

障害のある人もない人も、一人ひとりが大切なかけがえのない存在であり、誰もが個性の光で輝いています。

私たちの社会全体が輝くためには、それぞれの光が豊かに輝き続ける必要があります。

このため、私たちは、富山県民として、みんなで力を合わせて、障害の有無によって分け隔てられることなく、お互いに人格と個性を尊重し、共にいきいきと輝くことのできる社会の実現を目指すことを、ここに宣言します。



事件について、ある本人からは、このような言葉がありました。「『こんなことがあると、自分はいてもいいのだろうか？』と不安になることがあります。でも、周りから『守られている、認められている』と思えると、自分自身や、周囲の人々を大切にしようという気持ち、改めてもつことができ『ます。』」

また、会員の方からはこのようなメッセージを寄せていただきました。「**重度の知的障害と自閉症があ**

る26歳の息子との生活は、まわりの人たちの目には、時にはとても大変そうに見えるかも知れません。でも、目をそらさないでしっかりと見てください！（立ち止まってジロジロでも結構です。）小さなしぐさ、一瞬の笑顔に、皆さんの幸せや充実感を一緒に感じながら生きています！」

本当に、障害者是不幸を作り出す、不慮な存在なのではないか？障害があっても、一人ひとり、仕事を頑張っていたり、仲間と楽しく過ごしたりと、毎日を懸命に生きています。

親や家族は、戸惑ったり悩んだりしながらも、わが子の成長に、幸せを感じながら生きています。障害があっても、なくても、一人ひとりが、かけがえのない、大切な存在なのです。

悲しい事件でしたが、これを機に、互いにそれぞれの違いを認め合い、支え合う、優しい「共生社会」の実現が進むよう、願っています。

そして、育成会として、障害を知ってもらおう、理解してもらおうために、何ができるのか、これから、ともに考えていきたいと思います。

— なくそう差別 守ろう人権 —

第3回全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会(神奈川県大会)

平成28年7月2日(土)・3日(日)

全国手をつなぐ育成会連合会の、全国大会が、神奈川県横浜市で開催され、富山県育成会からは、50名(内、本人11名)が参加しました。

表彰おめでとうございます

蔭島 章 氏

かたかご苑・保護者会長の蔭島さんが、永年の功績を称え、表彰されました。おめでとうございます。



子がまねる 親の正しい 歩き方

は一味異なった、第三分科会に興味を引かれました。

「誕生した大切な命だから 一人ひとり充実した人生を！」

今大会のテーマは、

各分科会のテーマは、

- ◆第一分科会
大切な命を授かって生まれる
- ◆第二分科会
インクルーシブな社会で育つ
- ◆第三分科会
自分らしさを発揮して生きる
- ◆第四分科会
成人後の人生を自立的に暮らす

「どの分科会に参加しようかな」と悩むところも、全国大会に参加する楽しみです。

全国の参加者も均等に、各分科会に分かれたようですが、今回は、登壇者も、内容も、従来の大会と

「可能性を引き出す支援の実践」というテーマで、アートや、ロックンロールが仕事という事業所のお話や、グループホーム運営をしながら、生きにくさを感じている人たちの支援を、地域を巻き込みながら実践しているお話がありました。

会場のステージ上には、段ボールで作られた、商売繁盛・開運を招く大きな熊手が、「千億万円欲しい」と書かれた飾りがあり、大きなご利益がありそうです。

その熊手を作った本人さんが登場し、熊手販売の口上の披露があったり、コーディネーターによるシンポジストの撮影があったり、なんと楽しく、自由な分科会。

自由に楽しく、本人のやりたいことに寄り添い、一人ひとりの個性を大切にしながら、それぞれの可能性を引き出そうと、試行錯誤しながらの支援や、音楽やアートで自分自身を自由に表現する本人たちの姿は、今大会のテーマであ

る、「一人ひとり充実した人生」を送っていることを体現しているように感じました。

ライブセッション@かながわ

分科会終了後は、育成会大会、本人大会の参加者、約2,100名が集合し、今大会の目玉企画、「ライブセッション@かながわ」が開幕!

「スタジオオクーカ」の皆さんによる、思わず笑ってしまう人形劇と、「サルサガムテープ」による大迫力のライブ!

ステージ、客席の全員が、自由に歌い、踊り、笑顔いっぱい、汗いっぱい楽しんでました。



全国大会 第三分科会

「自分らしさを発揮して生きる 可能性を引き出す支援の実践」

かたかご苑保護者会

柴田 万希子

第三分科会は、自分らしさを発揮して、枠にとらわれないこと、好きなことを自由に活動すること、を支援、実践している生活介護や就労継続支援B型の事業所の話でした。

StudioCOCCA(スタジオ・クーカ)は、アート活動の事業所で、自分のペースで思いのまま描き、創作し、見方によっては「ゴミにされそうなものを、きちんと価値あるアート作品として発表し、実際に高い評価も受けているとのこと。

ステージ上には立派な熊手。利用者の伊藤さんが作ったものです。

その熊手の横に伊藤さん自身が登場し、堂々と披露した見事な口上に、会場は大歓声でした。

また、大会の冊子を入れた手提げバッグもCOCCAの素敵なデザインでした。
NPO法人UCHI(ウチ)は、



開運熊手と伊藤さん
5万円で販売したそうです

人との関係を築くのに困難を抱えた本人たちに自分史作成の支援をして、地域とつながりながら、その人らしい生活を送れるようグループホームの支援をしています。一人ひとりに、深く丁寧に関わっておられるのがよくわかりました。

最も印象的だったのはNPO法人ハイテンション代表・かしわ哲さんの「見てください。見ればわかります」でした。

ロックン・ロールを仕事とする事業所で、全身で楽しみ、利用者が皆ミュージシャンでパフォーマー。

話の中で、ライブ中とても楽しんで飛び跳ねている人がいると、抑えようとする親や支援者がい

て、その行為が「障害だ」と言われませんでした。

確かにいろいろな場面で、親も支援者も、よかれと思い、先回りして声をかけたり、手を出したりします。それが型にはめることや、障害となることもあるとの言葉が、胸に刺さりました。

本人のしたいことをいい意味で後追いつくことも大切だと、コーディネーターの方も話されていました。

分科会終了後、他の分科会の参加者、本人大会の参加者が会場に揃い、ゲストのミック・吉野さんも加わり、全体のライブセッション、ロックバンドの「サルサガムテープ」のステージとなりました。メンバーの躍動したパフォーマンスは圧巻。素晴らしくて、自信に満ちた表情、笑顔、観客も引き込むエネルギーに感動し、気がついたら涙が溢れてとまりませんでした。

これから、親として支援者として、心からの笑顔を引き出せるように、その人らしさを大切にすることを、本当の意味で実践していきたいと思えます。

大会2日目の記念講演では、マラソン競技のオリンピックメダリストであり、現在は、スペシャルオリンピックス日本の理事長として活躍の、有森裕子さんが登場。いろいろな事にチャレンジしたり、経験することによって、自分に自身が持てるようになったり、その人の可能性がまだまだ引き出されると、ご自身の経験から、お話しされました。

神奈川大会は、本格的な夏の到来を告げるかのような晴天の下、二日間にわたる楽しい思い出と共に、閉会しました。

来年は北海道大会です!

来年の全国大会は、9月23日(土)、24日(日)に北海道札幌市で、開催される予定です。

是非、皆さんご参加ください。



— 無関心 見て見ぬ振りから 差別の芽 —

やまゆり園事件について

8月7日、本人部会を行いました。

集まったみんなが口々に、1週間前に神奈川県で起こった事件について話をしていたので、予定を変更し、全国育成会・久保会長の、メッセージをみんなで読み、自分の気持ちを書くことにしました。

いつもにぎやかな本人部会が、この時ばかりは、シーンと静まり返り、全員、真剣な態度で、向き合っていました。

その時に書いた、みんなの思いの一部を、ここに掲載します。

悲しい、不安、といった、素直な気持ちを書かれています。

- ◆ゆるせないことだと思います。ぼくも、同じ障害者として、不安な気持ちになりました。
- ◆人間どうし、なかよくしましょう。ぼくも、とっても悲しいです。
- ◆「障害者はいなくなればいいと思った」と聞いて、自分のことを言われているのかとおもった。
- ◆全国に障害者は何人もいる。ひとりひとりが仲間です。団結しよう。
- ◆なぜ、こんなひどいことをするのですか？自分が障害者だったらどんな気持ちですか？
- ◆残虐きわまり、恐怖に陥れるようなことを、二度と許しません。
- ◆障害者差別は許せません。安心して暮らせる明るい社会にしてほしいです。
- ◆社会に一人でも「障害者なんかなくなっしまえ」という考える人がいると思うと、安心して生活できません。同じ障害者として悲しかったです。
- ◆どうして、施設で働いていた元職員が事件を起こしたのか、納得がいかない。
- ◆人殺しはとても怖い。自分の気持ちはとても怖い。
- ◆こんなことがあると、自分は居てもいいんだろうかと不安になることがあります。
- ◆でも、周りから守られている、認めてもらっていると思うと、自分や周囲の人を大切にしようという気持ちを改めて持つことができます。
- ◆気持ちはわかりますが、あまりにも悲しい事だと思います。
- ◆わたしも自分なりにがんばっています。障害者の気持ちもわかってほしいです。
- ◆人殺しをしないで、おだやかな生活をおくってほしいです。楽しい毎日になってほしいと思います。平和な毎日になってほしいと思いました。

あたたかい 心と心のふれあいで 守ろう人権

全国大会本人大会

富山県育成会からは、本人大会に11名が参加しました。



今回、全国大会に初参加した寺島さん。申込書を持参した際にこんな事を言っていました。

「親も年をとって来たから、将来のことを、いろんな人と話したい。」



その寺島さんは、「生き方トーク」の分科会に参加しました。グループトークでは、親がいなくなったらどうするか？これらの暮らしはどうするか？という話が多かったそうです。両親が亡くなってしまった人、グループホームで暮らしている人、いろんな人と話ができ、参加して良かった！とのことでした。

人権は かけ声よりも 心がけ



中華街でランチを楽しみ、お土産をいっぱい抱えて、帰ってきました。

来年の全国大会は、北海道！

「来年は飛行機で行くよね、お金がかかるから、今から貯金」という声、帰りの新幹線の中では、飛び交っていました。



平成29年度 富山県予算に対する要望書
平成28年10月19日に提出しました

1. 権利擁護の推進

- (1) 県条例や「差別解消ガイドライン」の普及・啓発のため、行政機関職員研修や各種団体への出前講座の実施、良い配慮事例の収集・PRなどを通して、実効性を高める知的障害者理解啓発の推進
- (2) 市町村における「差別解消支援地域協議会」の設置と相談体制の整備を促進し、地域における障害特性の理解啓発とそれに伴う環境整備の推進
- (3) 知的障害のある人にも分かりやすい選挙公報や候補者情報の提供、投票所における合理的配慮など、選挙権行使のための具体的な支援と周知
- (4) 本人の高齢化や親亡き後を見据えて、市町村における成年後見人の育成と成年後見センターの整備促進など、成年後見制度の普及・啓発
- (5) 「障害者虐待防止法」を周知徹底するための研修と知的障害児者の養護者に対する支援体制の推進

2. 障害児支援の充実強化

- (1) 子育て支援施策や家族支援施策、療育支援施策の一層の充実強化
- (2) 行動面で特別な配慮を必要とする支援学校高等部の生徒が、卒業後に事業所や施設で受け入れが進むよう、特別な支援に必要な人材の確保

3. 特別支援教育の充実

- (1) 普通学校(学級)と特別支援学校(学級)との交流や共同学習の

6. 就労支援の推進

- (1) 障害者優先調達法による発注拡大に努めるとともに、「富山県工賃向上支援計画」を検証し、障害者が地域で自立した生活が送れるよう、所得保障の拡充
- (2) 知的障害者に配慮した就労促進と雇用の拡大・定着が図られるよう、雇用現場での障害特性の理解啓発研修や合理的配慮の周知・徹底

平成28年10月19日に、富山県厚生部、教育委員会(県立学校課)、選挙管理委員会(市町村支援課)、商工労働部(労働雇用課)、に対して、県育成会から7名の理事等により要望活動を行いました。

要望後にそれぞれ懇談する時間を設けていただき、日頃の思いや懸念事項を話し合うことができました。

★知的障害理解について(厚生部)

今年4月の障害者差別解消法や県条例の施行に伴い、県職員はもとより、教員、警察官等への研修会を実施しており、市町村に対しても相談体制や差別解消支援地域協議会の設置などを働きかけている。

県条例の理解、周知を図るため、県職員を出前講座に派遣するので、活用していただきたい。

★幼少期からの知的障害理解について(教育委員会)

学校間や地域の方々、居住地の学校との交流活動などを通して、地域の方々への啓発に努めるとともに、幼少期からの障害理解啓発にさらに取り組みたい。

★選挙権行使のための合理的配慮について(選挙管理委員会)

18歳選挙権の周知を図るため、高校や高等支援学校等で模擬選挙を実施しており、出前講座を活用して選挙を体験していただきたい。

★障害者雇用について(商工労働部)

短期の職場実習(チャレンジトレーニング事業)の利用や、障害者雇用推進員による事業所開拓などを通して、本人が適応しやすくなるような就労や定着支援につなげていきたい。

平成29年度(2017年)
富山県手をつなぐ育成会 主要行事日程表

来年、平成29年度の東海北陸ブロック大会は、富山県での開催です。

ご参加、ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます!!

開催日(予定)	事業名	場所
平成29年6月4日(日)	一般社団法人富山県手をつなぐ育成会 平成29年度 総会 及び 研修会(※)	サンシップとやま 1階 福祉ホール
10月21日(土) ～22日(日)	第50回東海北陸手をつなぐ 育成会大会(富山大会) (創立60周年記念・ 第45回富山県手をつなぐ育成会大会 併催)	<育成会大会> 富山県民会館、サンシップとやま <本人大会> 富山県農協会館
9月23日(土) ～24日(日)	第4回全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会	北海道札幌市

※東海北陸大会開催のため、従来の県大会と異なり、総会及び研修会の内容で開催いたします。

推進をはじめ、障害のある子どもへの理解を深める学習など、幼少期からの福祉教育の充実

(2) 教職員に対する知的障害特性や合理的配慮についての理解啓発研修の充実など、特別支援教育の充実強化

4. 地域生活支援の推進

- (1) きめ細かな相談支援体制の整備、及びサービス等利用計画の作成に見合う報酬単価への改善
- (2) 重度障害者の緊急時の一時預かりや必要な時に利用できるよう、ショートステイの整備推進と支援員に対する障害特性に関する理解啓発研修や適切な支援
- (3) 障害者の高齢化や認知症化、重度化に対応できるよう、障害福祉制度と介護保険・医療との連携
- (4) グループホーム、共生型グループホーム、生活介護事業所等の設置に伴う地域住民に対する理解啓発策の構築、及び整備費所要額の確保
- (5) グループホームにおける医療的ケアや強度行動障害、高齢化に伴う特別なニーズ等に対応できる支援員の配置と報酬単価の適正化
- (6) 「とやま地域共生型福祉推進特区」を活用した共生社会づくりの推進
- (7) 市町村における「地域生活支援拠点等事業」の普及・啓発と基盤整備の充実

5. 防災対策・安心安全対策の推進

- (1) 災害時における知的障害者専用の避難所や一般の避難所の中での専用スペースの確保など、障害者の避難対応策等の具体化に向けての啓蒙・啓発
- (2) 障害者を含む家族の生活支援を図るため、要支援者の把握及び市町村行政と関係機関との情報共有、連携体制の強化

研修会 (H28年7月31日 サンシップとやま)

「グループホームって、どんなところ？」

講師 **尾崎 順子** さん
(社会福祉法人 手をつなぐとなみ野 常務理事)



「選択肢の一つとして」
富山市 匿名希望

申込みをし、当日を迎えました。まずはGHの定義と、設置者(誰が作るのか)、立地条件、設置基準等のお話から。

なるほど、地域の育成会や親自身でGHを作ること、法人格をとれば、可能とのことでしたが、スプリンクラーの設置等、厳しい基準を満たす必要がある、空き家などをGHにするというのは、難しそうだと感じました。

次に、どんな人が利用しているのか説明されました。

GH利用の際には、支援区分判定が必要とのことですが、障害程度による利用の可否や、年齢や地域の制限は無く、親がいる人、いない人、作業所の利用者、一般就労している人と、利用者は多岐にわたるそうです。

また、同性同士が暮らすGHが多いとのこと、娘を持つ親として、少しホッとしました。

面白かったのは、手をつなぐとなみ野の、あるGHの事例です。そのGHの利用者は全て、就労や、他法人の作業所に通っており、「となみ野」の利用者はゼロ。

親亡き後や、本人の自立のため、将来の「暮らし」の選択肢として、グループホームを考えている方も多いと思います。

一方、具体的な費用や、支援体制、生活の様子がわからず不安、といった声も聞かれます。

そこで今回の研修会では、事前に数名の方に、グループホームについて、「ここが知りたい！気になる！」という点を挙げていただきました。

- 事前に挙がった点は：
- ① GHってどこが作っているの？
 - ② 空家を利用してGHにできる？
 - ③ 親自身がGHを運営できる？
 - ④ 希望したらすぐに入れるの？
 - ⑤ 誰でも利用できるの？
 - ⑥ どんな支援をしているの？

- ⑦ 昼間どうしているの？
 - ⑧ 休日はどうしているの？
 - ⑨ 金銭管理はどうしているの？
 - ⑩ 利用者は自宅に帰れるの？
 - ⑪ スバリ、費用はどれほど必要？
 - ⑫ GHで一生暮らせるの？
 - ⑬ ご近所さんとはどんな感じ？
- 等々、具体的なものばかりです。

これらの、気になる、知りたいという点について、現在4つのグループホームを運営している、(社福)手をつなぐとなみ野の尾崎さんに、実際のエピソードを交えながら、わかりやすくお話ししていただきました。

参加の方から、ご感想をいただきましたので、掲載いたします。

落としがちになってしまいます。

朝食後は、それぞれの職場や作業所に向かい、仕事を終えると、「となみ野」のGHに帰ってくるそうです。

同じGHで暮らす人に刺激を受けて、私も就労したい！と一念発起し、福祉作業所を経て、今では一般就労をしている方もあるそうです。

GHと作業所は、同じ法人の所に行かなければいけないと、思い込んでいた私には、目からウロコでした。



一番気になっていた「費用」については具体的な金額を出して、大変わかりやすく教えていただきました。

ハツとしたのが、GHの「利用料」だけではなく、毎月の「生活費」も必要です、と言われた時で生計を共にしていると、つい見



町内会に入って、行事にも積極的に参加していることで、近隣との関係も良好という話や、休日の

あなたです！ 差別するのも されるのも

あつあぶない 子供は動く 赤信号

門限破り、居酒屋で酔っぱらって駅で寝てしまい、交番のお世話になってしまった等の失敗談には、思わず会場から笑いが漏れました。

地域の中で、支援を受けながら、管理されすぎず、自立して暮らしている証のようにも感じ取れ、大変好感を持ちました。

講師の尾崎さんには、同じ障害のある子を持つ親として、私たちの気持ちに寄り添いながらお話ししていただきました。

GHはいろいろな暮らし方の選択肢の一つであり、自立した生活の第一歩とのこと。

失敗しても、温かく迎える家庭・場所があるうちに、短期間・繰り返し「体験利用」を、かわいかわいがりに経験させてみましょう、という言葉に勇気づけられました。

今回の研修会では、知りたかったことを、詳しく、わかりやすく教えていただき、参加して本当に良かったです。

自分の気持ちが表現しにくい娘ですが、今後のことを家族全体で話し合ったり、考えたりしていきます。

たいと思います。

ありがとうございます。

当日は定員を超え、80名のご参加がありました。

今回の研修会で、皆さんの疑問や、不安に感じているところが、かなり解消したと思います。

いろいろな理由で、自宅に戻る人や、一人暮らしにチャレンジする人、高齢化施設へ移っていく人もあり、GHも、決して「終の棲家」ではないとのこと。

講師の「地域の中で自立した生活を送る第一歩、暮らし方の選択肢の一つとして考えてください」との言葉が印象的でした。

「どこで、どんなふうに暮らしていくのか」、経験を重ねながら、ご本人、ご家族みなさんと、考えてみてはいかがでしょうか。

後日、見学を希望された方を対象に、「グループホーム見学会」を開催しました！

詳しくは、次号でご報告いたします。

地域事業所部会「第13回職員研修会」

講師 岡田千秋氏

(県厚生部障害福祉課 広域専門相談員)

平成28年8月20日(土)、呉羽ハイッにて、第13回地域事業所部会職員研修会を開催しました。

この研修会は、県内の事業所職員を対象に、職員としてのあり方や福祉制度を学ぶとともに、日々の支援についての悩みや困りごとについて話し合い、情報交換しあう機会として、毎年開催しています。

今回は、講師に、富山県厚生部障害福祉課・広域専門相談員の岡田千秋さんをお迎えし、

- ① 差別解消法・県条例の概要
 - ② 何が「差別」にあたるのか？
 - ③ 障害特性に応じた「合理的配慮」とは？
 - ④ 福祉従事者に求められる「尊厳の保持」
- 以上4点をポイントに、午前は講

演、午後はグループワークを行いました。



講演では、「障害特性に応じた合理的配慮と権利擁護の推進」をテーマにお話ししていただきました。

障害者差別解消法や県条例が目的とするところは、障害がある人も、ない人も、すべての人が互いに支えあいながら、安心して生きることのできる「共生社会」の実現です。障害や、病気が影響して起きる、

— 差別ない 心で広げる 豊かな社会 —

生活のしづらさや、生きづらさを、周囲が理解して、必要かつ適切な配慮をしたり、環境を整えたりすることによって、その人らしく社会生活を送ることが、たやすくありません。

事例の中には、つい忘れがちな事、たとえば、障害のある人と向かい合う際には、「どう伝えるか」ではなく、「どこまで伝わったのか」、また、相手がどこまで理解したのかを確認するということが、その都度振り返るべきところが、いくつもありました。

差別の解消の推進に向けて、すべての人が、「人権」への感受性を高める努力をすることや、障害特性への理解と適切な対応を心がけることを、改めて学びあう機会となりました。

「自己覚知」

「その人らしさの尊重」とは

午後からは、グループワークを行い、「自己覚知」・「その人らしさの尊厳とは？」をテーマに、援助者に求められることを考えまし

た。

「自己覚知」とは、自分自身の傾向を知ること、気付くこと、そして、修正・コントロールしていくこと。

今の自分が、どんな視点で、今、どんな立場で、利用者に向き合っているのだろうか。

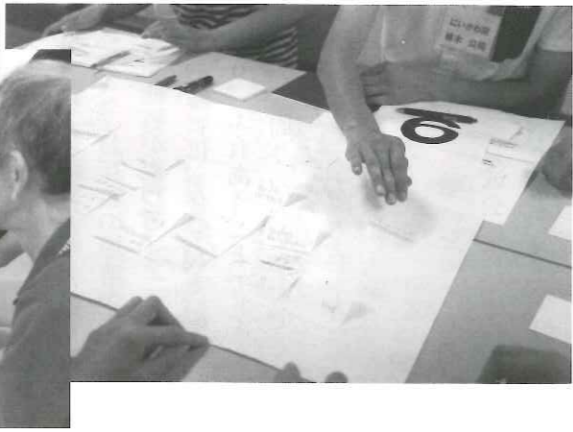
日々の支援の中で、自分の態度や行動、コミュニケーションの仕方が、相手にどんな影響を与えているのか、相手との関係にどのように影響しているだろうか。

経験を積んだ熟練の人であっても、このような「気付き」を高めていくことが大切とのことです。福祉従事者は、利用者の抱える弱さに、最も近い立場にいるため、権利侵害者となりうる危険性を有しているとのこと。

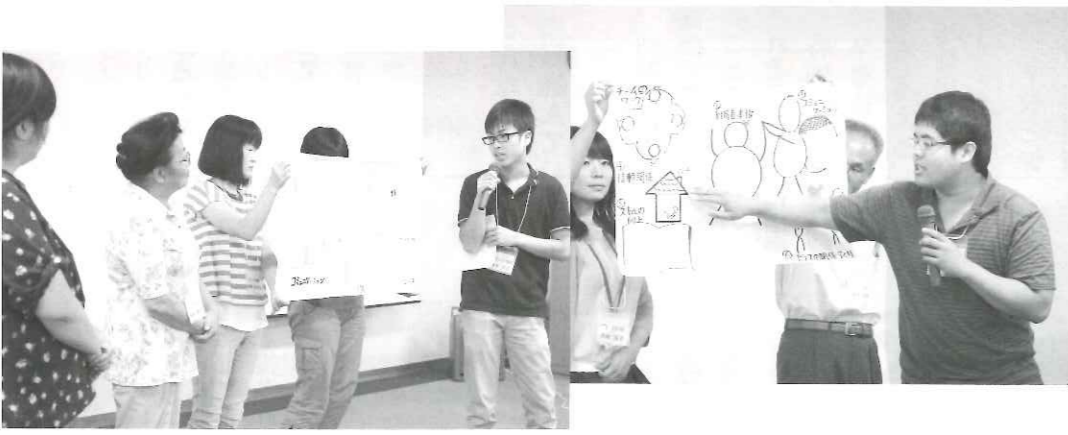
たとえば、神奈川県で起こった、障害者施設殺傷事件について、自分は、どう捉えたか、どの面が気になったのか、どの立場で考えたでしょうか。

障害のあるかわいそうな人たち、といった視線や、上から目線ではなく、福祉従事者には、「相

次は、グループでキーワードの分類、優先順位付けをし、相互関連図を作ります。



最後の発表では、「成功事例」を加えて、意見交換をしました。



- エンパワメント(その人の持っている力を引き出していく)
 - ストレングス(どんな人にもある強みを生かしていく)
 - アドボカシー(どのように意思決定を支援していくのか)
- 職員同士のような立場であっても、相互に批評できる職場風土を築き、「自己覚知」に努めながら、この3つのキーワードを常に意識し、福祉従事者として、どのように行動、接遇していくのか、そして、「何が障害なのか」を考える、振り返ってみるこの大切さをアドバイスいただき、研修会を閉じました。

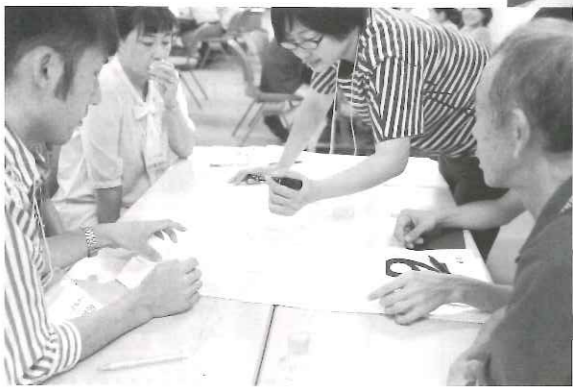
一人ひとりの違いを認め合い、尊重していく。その前提となる「自己覚知」という言葉は、新鮮な響きとともに、参加者の胸の中に染みわたったように思えました。

これからの自分のあるべき姿、接遇について、相手を尊重するという人権意識を踏まえて、考えるよい機会となりました。



手を認め、尊重する」という視点や、個の尊厳を大切にすべき、と教示いただきました。

グループワークでは、援助者に求められることについて、キーワードを上げていく作業から始め、「人権意識、尊重、尊厳、自己決定、主体性、その人らしさ、力を引き出す、強みを見出す、コミュニケーション、継続、連携」…苦勞しながら、各々いろいろなキーワードを書き出しました。



— 守る 人権 明るい未来 —

役員・支部長・相談員合同研修会

「親の会とつなぐ育成会活動」

【講師】浜松手をつなぐ育成会 会長 小出 隆 司氏

(全国手をつなぐ育成会連合会副会長)

平成28年7月22日(金) サンシップとやま

全国各地の育成会は、近年、会員数が減少し、育成会に入るメリットが問われたりするなど、多くの課題を抱えております。

こうした中で、組織がしっかりと、若い会員の増加が見られる、浜松手をつなぐ育成会から、小出会長さんをお迎えして、研修会を開催しました。

私たちが一番つらく苦しかったのは、子どもが生まれ障害があった時です!!

一番苦しい時期の人たちに手を差し延べられない育成会は、存在価値はない、と訴えられ、このことを常に念頭に置いて活動している、と話

等において積極的に提案や発言を行い、参画していくことが大切ですが、ご教示いただきました。

障害者の高齢化・重度化等の対応や親亡き後を見据えた、「地域生活支援拠点等の整備」については、全国的に見ても、まだまだ取り組みが少なくイメージがつかめない中、小出さんは、地域包括ケアの考え方が高齢者だけではなく、障害者にとっても大切なポイントではないかと示唆しておられます。

これからの育成会に求められる役割とは?

この10年で障害福祉や教育の環境は大きく変わりましたが、実際に、「安心して我が子を託せる社会」が実現したでしょうか?

これからの10年は、高齢化や多様化へと進む社会に対応するため、より大きな社会制度改革が求められます。小出さんから沢山のヒントをいただきましたが、最後に、育成会として、我が子を託せる社会づくりを進めるため、共に「手をつなぐ」活動を活発に継続させましょう、と温かいエールをいただきました。

飛ばすまい みんなの町です 道路です

静岡県(浜松市)は、富山と相似?

ホームヘルパーの利用率が、共に全国最低ラインで相似。浜松では、車や楽器などの産業のまちとして発展する中で、生産性が最も重視された結果、障害を抱える多くの方が施設に移り、ヘルパーを使う習慣が育たなかったそうです。

どんな組織?どのような活動に取組んでいますか?

幼児から成人までの年代ごとの6部会、地区ごとの5地区会、活動目的ごとの9委員会の3つで構成され、それぞれ主体的に活動しています。



特別支援学校卒業後の将来を考える、「福祉事業所の合同説明会」は、学校と保護者、事業所の3者にとっても大変貴重な取組で、学

迫りくる「家族同居の高齢化」をどのように受け止めるのか?

超高齢社会が進む中、どのような対応が必要でしょうか? 何より、障害のある人や家族の高齢対応を盛り込んだ地域支援体制の整備が急務です。親亡き後に我が子を託すためには、当事者である育成会が地域の協議会

富山県育成会の会員になりませんか!

知的障害のある本人たちの権利擁護を推進し、誰もが安心して暮らせる共生社会づくりを一緒に進めましょう。

正会員 障害のある人の保護者や家族

年会費 5千円(1世帯)

市町村支部や施設保護者会でさまざまな活動を行っていますので、市町村支部等にもご入会をお願いします。

賛助会員 育成会の活動を理解、応援して下さる方を募っております。

年会費 特別賛助会員 1口 3千円

賛助会員 1口 1千円

富山県手をつなぐ育成会 電話 076-441-7161

ホームページのご紹介

各支部の研修会やイベントの案内を掲載いたしますので、是非、情報をお寄せください。富山県育成会で検索すると、(一般社団法人 富山県手をつなぐ育成会)と出てきます。

育成会の動き

日時	内容	日時	内容
[報告]		10/2(日)	「障害者の人権や尊厳に関する県民大会」 富山県共催事業(タワー111)
8/2・3(火・水)	障害者相談員(3障害)活動強化研修会 (金太郎温泉)	〃	パイロットウオーク(富山市ファミリーパーク)
8/7(日)	本人活動部会(サンシップとやま)	10/3(月)	共同募金運動(街頭募金)
8/20(日)	地域事業所職員研修会(呉羽ハイツ)	10/5(水)	県特別支援学校長懇談会(呉羽ハイツ)
8/27(土)	県防災訓練(小矢部市)	10/7(金)	施設部会(サンシップとやま)
9/1(火)	理事会(サンシップとやま)	10/13(木)	第16回全国障害者スポーツ大会結団壮行式(県庁)
9/7(水)	にいかわ地区 ふれあい育成スポーツ大会 (ありそドーム)	〃	サポート協会 東海・北陸ブロック大会(愛知県)
9/8(木)	TDF事務局会議(県聴覚障害者センター)	10/14(金)	高岡支援学校 創立50周年記念式典(支援学校)
9/10(土)	セーナー苑 創立50周年記念式典(富山第一ホテル)	10/15~10/16 (土・日)	手をつなぐ育成会 東海北陸大会(岐阜県高山市)
9/16(金)	射水・高岡・水見地区 ふれあい育成 スポーツ大会(高岡市民体育館)	10/19(水)	県予算要望(県庁)
9/21(水)	県議会自民党政調会 県予算要望(県民会館)	10/22(土)	富山大学人間発達科学部附属特別支援学校 創立40周年記念式典(支援学校)
9/22(木)	グループホーム見学会 (手をつなぐとなみ野・溪明会)	10/22(土)~24(月)	第16回全国障害者スポーツ大会(岩手県)
9/25(日)	本人活動部会(富山市社会福祉センター)	10/27(木)	第65回富山県社会福祉大会(県民会館)
9/27(火)	県特別支援学校知的障害教育校PTA連合会研修会 (サンフォルテ・とやま自遊館)	11/6(日)	ふれあい共生フォーラム(ファボレホール)
〃	心の輪を広げる体験作文・ポスター審査会 (県民会館)	11/8(火)	全育連 第5回権利擁護セミナー (サンシップとやま)
9/28(水)	福祉作業所「南天桐」竣工式	11/24(木)	社会福祉施設・団体正副会長連絡会議(高志会館)
9/29(木)	富山地区 ふれあい育成スポーツ大会 (富山県総合体育館)	11/26(土)	研修会「障害のある人の暮らしとお金」 (サンシップとやま)
〃	となみ地区 ふれあい育成スポーツ大会 (富山県西部体育館)	[予定]	
10/1(土)	研修会「卒業後の進路選択と就労後の 支援について」(サンシップとやま)	12/2(金)	障害者週間キャンペーン(街頭)
		12/8(木)	施設部会「全体研修会及び施設長懇談会」(自遊館)

育もう 傷みをわかる 心の眼